

東京で就職して良かったと実感

会員 伊藤 将之



1 東京へやってきた日

東京に来て早半年が過ぎた。元日に東京へ出てきたことを思い出す。私は大阪で生まれ、ずっと大阪で暮らしてきた。両親の実家や親戚の家も全て関西圏だ。昨年の10月末に東京の法律事務所へ就職が決まった。

東京へ出てきたのは、1月1日の夕方だった。元日を実家でゆっくり過ごさなかったのは、格安航空会社の1月1日のチケットを運良く手に入れることが出来たことと、何となくだが、生まれ故郷を離れて、新しい土地での新生活をスタートするには、元日からがいいと思ったからだ。

12月中旬ごろに借りる部屋は決めていた。新宿御苑前駅すぐの1Kのマンションだ。JR新宿駅へは徒歩15分。とても便利が良い。

着いた初日は、引っ越しの荷物も届いておらず、家には何も無い。引っ越しの荷物が届く予定の1月3日までは、布団すら無いので、寝るときは部屋のフローリングの地べたに寝っ転がるしかなかった。床がとても冷えるので、暖房とダウンジャケットだけで凌いだ2日間は辛かったことをよく覚えている。

東京で就職した理由は、集合修習の時に、東京で仕事をする事への憧れを抱いたからだ。週末は和光駅から電車に乗って東京へ行き、大都会を色々と見て回った。もともと東京で働くつもりは無かったが、多くの人で溢れ、大きなビルが立ち並び、名だたる企業が軒を連ねている景色を見て、東京の活気に圧倒された。是非ともここでたくさんの仕事に揉まれて弁護士として成長したいと思った。

2 弁護士業務

1月6日が仕事始めだった。いきなり先生と呼ばれることへ気恥ずかしさを感じた。入所したばかりのひよっこ弁護士よりもベテラン事務員の方が仕事をよく知っている。周りの人にどのように見られているのか、仕事への姿勢や振る舞いに気を配った。最初は、内容証明の起案等から始まり、徐々に色々な仕事をさせてもらえるようになっていった。

実際に仕事を始めてみると、デスクワークだけでなく、色々な場所に出かけて調査したりしなければならないことも多く、弁護士業務はとても体力がいる仕事なのだなと思った。つい最近経験した建物明渡事件では、とてつもない量のゴミで溢れかえるゴミ屋敷だった。執行官、執行補助者とともに明渡催告のため家の中に立ち入ったのであるが、2LDKの部屋全体がゴミで埋め尽くされていた。虫が飛び交うひどい臭気の中、ゴミ山を掻き分けて中に入っていかなければならなかったのが、本当に大変であった。

3 東京へ来て良かったと実感

元日に東京へ来てからあっという間の6ヶ月だった。事務所の仕事は大変忙しいが、やり甲斐があり、また、東京弁護士会の研修やゼミは、各分野で著名な先生が講師として来られて直接ご指導をさせていただいたりする等、量も質も大変充実している。東京へ来て本当に良かったと思う。2020年には東京オリンピックが開催予定であり、家の近くにも新しいビルが次々と建設されている。これからさらに経済が活発化し、仕事が増えることに期待している。多くの経験を積み重ねて、頼りになる弁護士になりたい。